

キウイフルーツ新品種群「香川 UPーキ 1～5 号(総称：さぬきキウイっこ®)」の育成

山下泰生^{a)}・末澤克彦^{a)}・大谷衛^{a)}・小野壮一朗^{a)}・坂下亨^{a)} 福田哲生^{a)}・片岡郁雄^{b)}・別府賢治^{b)}

a) 府中果樹研究所、b) 香川大学農学部

香川県農業試験場研究報告 第72号 (2021年3月) 11-22

1. 「さぬきキウイっこ®」は、香川県と香川大学の共同研究により育成された登録品種名「香川UPーキ1～5号」の5品種の総称で、登録商標である。
2. 樹勢は弱～中、樹の大きさは少～中、葉身の形は長楕円形で一般的なキウイフルーツとは大きく異なる。花穂の着生は中～多で、側花の数は中～極多である。
3. 発芽期は、育成地で3月13～15日と極早く、主要品種の「ヘイワード」より半月程度早い。開花期は5月10日前後と早く、「ヘイワード」より10日程度早い。成熟期は、11月1日と中であり、「ヘイワード」より半月程度早い。
4. 果実の重さは概ね40～50gと一般的なキウイフルーツに比べて小型である。果皮表面の毛じは少なく糖度計示度は概ね17～21と高く、食味は極めて良い。果肉の色は、黄色、黄緑色、緑色と品種により異なる。果形も楕円形、長楕円形、長台形、広楕円形と品種により異なる。
5. キウイフルーツかいよう病 biovar 3 (Psa 3) に対して「レインボーレッド」より強いと観察できる。
6. 概ね香川県のキウイフルーツ産地に導入可能と考えられるが、発芽期が3月中旬と早いことから凍霜害の危険性がある地域での栽培は避ける。また、一般的なキウイフルーツと比べて、土壌の乾燥には強いと考えられる。

キーワード：キウイフルーツ，香川 UPーキ 1～5 号，さぬきキウイっこ®，新品種